

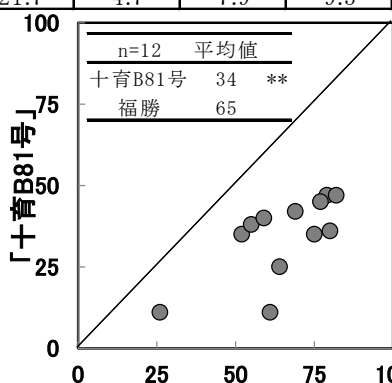
育種事業課題名：いんげんまめ新品種候補「十育 B81 号」の概要 (212300, 69322, 692351, 692372, 722361)
担当部署：十勝農試・研究部・豆類グループ
キーワード：いんげんまめ、金時、中生、多収、熟期分散

1. 特性一覧表

系統名：「十育 B81 号」 組合せ：十育 B71 号/十系 B352 号

特性：長所 1. 多収である。
2. 煮熟後の皮切れ、煮くずれ粒の発生が少ない。
短所 なし

普及見込面積： 1,600ha

調査場所 (箇所数)		育成地(十勝農試)			北見農試			現地試験 ²⁾ (のべ13か所)		
地域区分 ¹⁾		地帯 I			地帯 I			(地帯 I・II)		
調査年次		平成25～28年			平成25～28年			平成26～28年		
項目	品種名または 系統名	十育 B81号	福勝 (対照)	大正金時 (比較)	十育 B81号	福勝 (対照)	大正金時 (比較)	十育 B81号	福勝 (対照)	大正金時 (比較)
開花期(月日)		7.14	7.13	7.13	7.12	7.11	7.10	7.19	7.18	7.17
成熟期(月日)		9.7	9.4	8.31	9.7	9.1	8.30	9.12	9.10	9.5
倒伏程度 ³⁾		1.5	2.4	2.6	1.2	1.7	2.1	1.2	1.2	1.1
葉落良否 ⁴⁾		3.2	3.3	3.5	4.0	3.3	4.2	2.9	2.8	2.5
草丈 (cm)		64	57	54	60	50	49	50	47	45
莢数(莢/株)		16.6	16.3	17.3	18.6	20.4	21.3	16.6	16.8	17.6
一莢内粒数		3.10	2.69	2.75	3.02	2.85	2.75	-	-	-
子実重(kg/10a)		311	251	243	359	341	311	293	269	233
子実重対比(%)		124	100	97	105	100	91	109	100	87
百粒重(g)		82.0	81.2	68.2	78.6	80.0	65.6	77.3	77.9	64.8
屑粒率(%)		20.3	31.7	38.7	16.9	27.5	29.3	12.4	18.6	23.9
内 色流れ粒率(%)		6.9	14.5	17.9	13.2	17.3	21.7	4.7	7.9	9.3
種皮色	L*	29.72	31.06	30.55						
	a*	20.44	21.02	20.35						
	b*	4.94	5.48	4.98						
子実の形		楕円体	楕円体	楕円体						
長さ/幅		1.60	1.65	1.60						
幅/厚さ		1.16	1.22	1.27						
抵抗性	黄化病	やや弱	弱	弱						
	炭 病	Race 7	無	無						
	そ 病	Race 38	有	有						
	病	Race 81	有	有						

注1) 地域区分は、「道産豆類地帯別栽培指針」
(平成6年3月 北海道農政部)による。

注2) 普及見込み地帯での試験成績平均(試験場を除く)。

注3) 倒伏程度：無0、微0.5、少1、中2、多3、甚4。

注4) 葉落良否：良1、やや良2、中3、やや不良4、不良5。

図. 煮熟後の皮切れ・煮くずれ粒率
注1) 試験場及び現地試験のべ12か所
注2) **:1%水準で有意差がある

表. 製品試作試験における「十育 B81 号」の「福勝」に対する評価一覧

用途	業者名	年産 (平成)	色沢	舌触 り	風味	皮の 硬度	煮く ずれ	総合	コメント
煮豆	A 社	26	□	□	□	□	□	□	色・味は同等。
	B 社	26	□	□	□	○	○	○	煮くずれが少ない。
	C 社	27	□	◎	□	○	○	□	皮の硬軟バラツキ・煮くずれが少ない。
		25	△	□	△	□	-	□	やや色抜けが気になるが、製品はほぼ同等。
	D 社	26	□	□	□	□	-	□	製品は「福勝」「大正金時」とほぼ同等。
		26	△	□	□	□	□	△	味・風味等は同等で、製品使用は可能。
		26	△	□	□	□	□	△	ほぼ同等だが、色のバラツキがあった。
甘納豆	F 社	26	○	□	□	□	□	□	煮豆の色が良かった。
	G 社	27	□	□	□	□	□	□	色・味・風味等、大きな違いは無し。
	H 社	26	□	□	□	□	-	□	色・味・風味等、ほぼ同等。
		27	□	□	□	□	-	□	色・風味等、ほぼ同等。

注) 評価は、◎：優る、○やや優る、□：同等、△：やや劣る、×：劣る。

2. 特記すべき特徴

いんげんまめ「十育B81号」は、現在の早生金時品種に比べ多収で、熟期分散が可能な中生金時品種である。「福勝」と比較して、粒形、粒大および粒色は同等で、煮熟後の皮切れと煮くずれの発生が少ないため、加工適性は同等以上である。

3. 優良品種に採用しようとする理由

北海道における金時類は、6,260 ha（平成27年）の栽培面積があり、早生で良質な「大正金時」（約46%）と多収で大粒の「福勝」（約31%）の2つの早生金時品種がその大部分を占めている。豆類の中でも成熟期が早いことから、秋まき小麦の前作物として栽培されるなど、輪作体系上重要な作物である。また、実需者からは、煮豆や甘納豆用として品質の良さが高く評価されており、生産と価格の安定化が常に求められている。しかし近年、成熟期前後における高温条件下での降雨により、色流れ粒、発芽粒、腐敗粒等の降雨被害が発生し、生産が不安定となることで実需者への供給量不足が引き起こされている。加えて、品質劣化に伴う販売価格下落による収益性の低下が、生産者の作付意欲減退を引き起こしている。

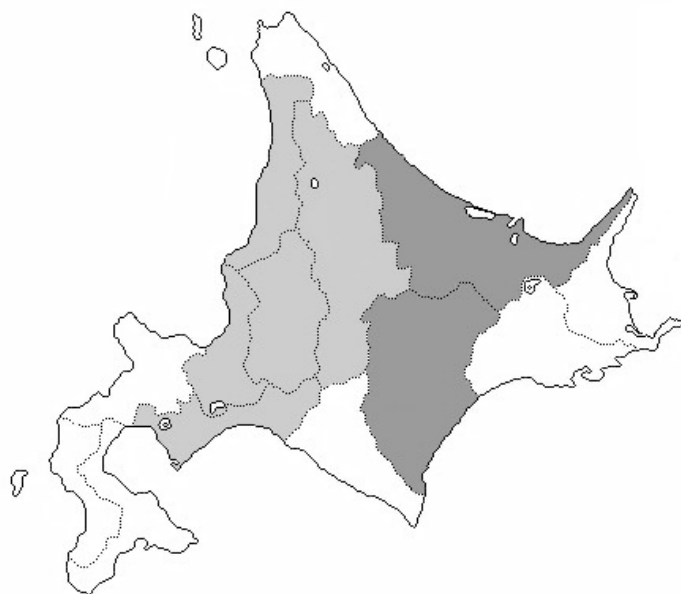
現在の早生金時品種は、5月下旬の標準播種期では、品種間の熟期が近接するために、成熟期前後の短期間の降雨で、深刻な被害を受けている。一方、色流れ対策として、晩播による熟期分散が一部で行われているが、減収のリスクも懸念されている。また、早生金時品種の中で「福勝」は、煮熟後の皮切れや煮くずれ発生の多さが、一部実需者から指摘されている。これら課題の解決に向け、早生金時品種と異なる成熟期を有し、収量性と加工適性が向上した中生金時品種が強く要望されてきた。

「十育B81号」は多収性を有する上、成熟期が「福勝」よりも3日程度、「大正金時」よりも7日程度遅く、早生金時品種との熟期分散による降雨被害発生の低減が期待出来る。また、煮熟後の皮切れや煮くずれの発生が「福勝」よりも少なく、同等以上の加工適性を有する。「福勝」と比較して、粒形、粒大および粒色も同等であるため、同じ大正金時銘柄での流通が可能である。

以上より、中生金時品種「十育B81号」を「福勝」の大部分（秋まき小麦前作が困難である一部地域を除く）に置き換えて普及することで、収量性の向上および早生金時品種との熟期分散による雨害リスク軽減が図られ、良質な北海道産金時類の安定供給に寄与できる。

4. 普及見込み地帯

全道のいんげんまめ栽培地帯（下部参照）



■ 地帯区分Ⅰ（道東）のべ18ヶ所

「福勝」 : +4日、113%

「大正金時」 : +8日、122%

■ 地帯区分Ⅱ（道央）のべ3ヶ所

「福勝」 : -2日、102%

「大正金時」 : +3日、136%

注) 各地帯における「福勝」および「大正金時」に対する成熟期・子実重の比較

（平成26～28年）

5. 栽培上の注意

1. 「福勝」と同様に大粒であるので、収穫・乾燥条件に留意し、損傷粒の発生を防ぐ。
2. インゲンマメ黄化病抵抗性は“やや弱”のため、適切な防除に努める。